



# 大阪市立大学大学院創造都市研究科 における起業教育

2010年11月14日

大阪市立大学大学院創造都市研究科  
准教授 新藤 晴臣  
(h\_shindo@gscs.osaka-cu.ac.jp)

※本内容は発表者の個人的見解に基づくものであり、所属組織の見解を代表するものではない。



## 1. 大阪市立大学の概要

- 【名称】 公立大学法人大阪市立大学
- 【代表】 西澤 良記
- 【人員】 教員：712人、職員：1,320人（2010年5月）
- 【学生】 学部：6,953人、大学院：2,089人（2010年5月）
- 【組織】 8学部、10研究科（商（経営）、経済、法、文、理、工  
医（医、看護）、生活科学、（創造都市））
- 【所在】 杉本キャンパス、阿倍野キャンパス、梅田キャンパス
- 【沿革】 1880年 大阪商業講習所（私立）設立  
1928年 大阪商科大学創立  
“大学は都市とともに、都市は大学とともに”  
1949年 大阪市立大学創立（5学部）



## 2.創造都市研究科の概要

【科長】 中本 悟

【教員】 30人(2010年5月)

【学生】 博士前期:255人、博士後期:75人(2010年5月)

【専攻】 都市ビジネス専攻

(アントレプレナーシップ、アジア・ビジネス)

都市政策専攻

(都市経済政策、都市公共政策、都市共生社会)

都市情報学専攻

(知識情報基盤、情報システム創成)

【所在】 梅田キャンパス

【沿革】 2003年 創造都市研究科設立

2005年 博士後期課程設置



## 3.アントレプレナーシップ研究分野 による起業教育

1)教育対象

a)学生イメージ

- ・起業家精神旺盛な小さくとも活力のある事業経営者
- ・将来のIPOも視野に入れ事業展開を図るベンチャー起業家
- ・新規事業や既存事業の見直しを推進する者
- ・非営利団体を含む社会貢献型起業家
- ・マネジメント・スキル豊かな創業支援人材

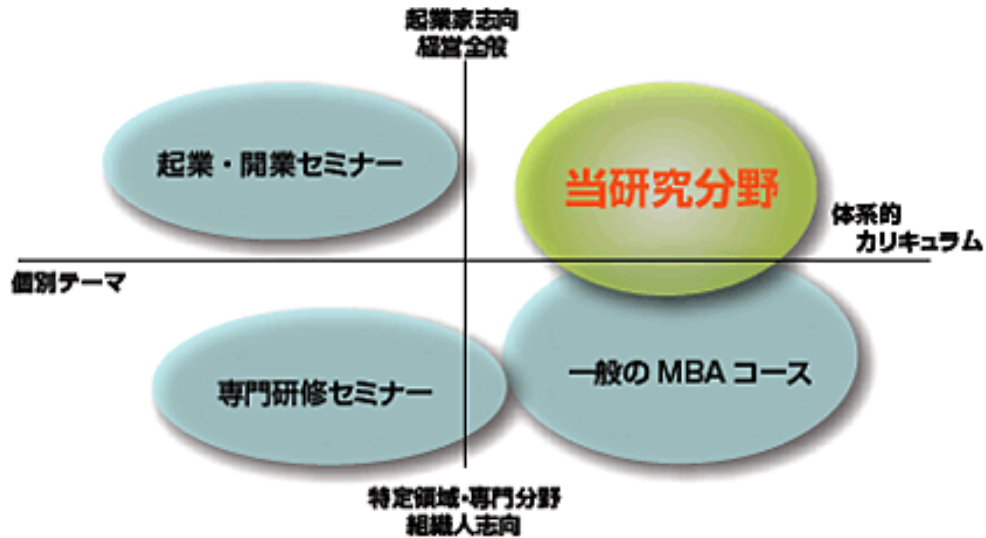
b)学生構成(2010年4月)





## 2)教育内容

### a)起業家教育におけるポジショニング



→MBAコースは専門家・組織志向という点で方向性が異なる

→起業・開業セミナーの多くは体系化の面で限界がある



### b)開講科目例(2010年)

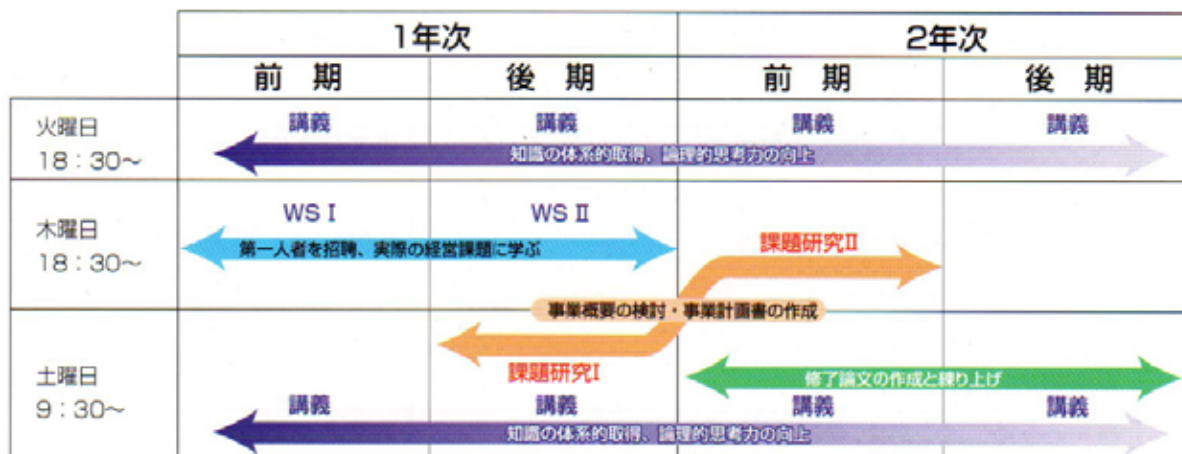
科目名	概要
起業と経営理念	ベンチャーの理解、起業家の理解、起業準備の理解、ベンチャー経営について解説する。
組織経営論	組織経営の基本知識、ベンチャー支援の成長段階に応じたマネジメントチームの役割等の理解を深め、また経営者の経営哲学等を伝える。
ベンチャー経営基礎論	顧客の視点に立って考えることや資金繰りの重要性など事業計画と事業に取り組む姿勢ならびにベンチャー経営に必要な最低限の基本知識を系統的に概説する。
アントレプレナーシップ論	実在するベンチャー企業の成長・発展プロセスにおける課題と論点について、起業家活動(Entrepreneurship)の論理をベースに検討を行う。
ベンチャーマーケティング論	古典から現在に至るまでのマーケティング理論体系(セグメンテーション、マーケティングミックス(4P)、インタラクティブマーケティング等)の紹介と、実践での適用ポイントを中心に議論を行う。
ファイナンシャル・マネジメント	財務状況の把握と財務分析を通じた課題の発見、その解決策について解説するとともに、経営の意思決定における財務的視点の活用や財務体質強化に向けた基本的施策について、ケーススタディを交え、討議する。
技術経営論	研究・技術開発型企業を事例に取り上げ、製品・技術開発プロセスに関する課題を企業戦略と一体的に捉える視点を提供する。
事業戦略論	1980年代から今日まで活用されている全社戦略や事業戦略(3つの基本戦略、Five Forces、価値連鎖などのツール)を学ぶとともに、これらを用いてベンチャー企業の事例分析を行う。
ベンチャー財務論	資金調達的手法と企業価値評価に焦点を当て、経営者がファイナンスを決定する上で検討すべき諸課題について概説するとともに、ケーススタディを通じ、受講者の実践的応用力の向上を図る。
人的資源論	人的資源をどのようにマネジメントしていくか、企業変革の組織リーダー役を果たすEntrepreneurial leaderにスポットライトを当て、その役割や育成、備えるべき条件や人物像等について解説する。
ビジネス法務	企業活動を始めると同時に、起業家が把握しておくべき法律知識を実務的視点から概説するとともに、具体的事例に基づき、事業展開において発生しやすい法的リスクとその対処方法について検討する。
コーポレートガバナンス論	新たに事業を起こす段階及び会社を継続していく中で、企業をどのように統治していくか、企業の収益性と適法性という一見相反する要請をどのように確保していくかについて、講義を行う。
株式公開とM&A	公開までの道筋、公開企業の条件、上場審査、審査資料の作成、関係機関の役割、企業価値の決定、IR活動、関係法規、社会的責任等を解説する。また、成長戦略である企業再編、敵対的M&Aと企業防衛について解説する。

→開講科目は経営学の基本科目+専門科目にて構成

→各科目でのベンチャー事例の使用など運用面に対応



### c) 課題研究と修了論文演習



- 課題研究 I、II では、必修科目として事業計画を構築する
- 修了論文演習 I、II では、修士論文、リサーチペーパー（論文型）、リサーチペーパー（事業計画型）のいずれかの様式で、修了論文を作成する



### d) ワークショップ（2009年度後期）

タイトル	講師
日本から世界に広がる和製バーチャルワールド —(株)スマイルラボの設立と“ニコットタウン”の展開—	(株)スマイルラボ 代表取締役社長 伊藤 隆博氏
女性の視点のベンチャービジネス	マザーネット(株) 代表取締役社長 上田理恵子氏
私の起業経験から	シグナルトーク 代表取締役社長 栢 孝文氏
事業機会は既存取引慣行への挑戦	(株)サンワカンパニー 代表取締役社長 山根 幸治氏
荒野に何を建てるか	Colliers International Principal Vice Chairman マリオン・ロバートソン氏
ベンチャー創業時の苦勞と克服過程	営業創造(株) 代表取締役社長 伊藤 一彦氏
倒産経験者が語る 倒産した経営者に降りかかってくる生の姿	パーククイーン開発(株) 代表取締役社長 小川 恵司氏
誰でもタックス・パイヤーになれる	社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長 竹中 ナミ氏
ニーズへの対応と事業展開	(株)エフアンドエム 代表取締役社長 森中 一郎氏
ベンチャーの非常識論:常識は危ない	B.Creation(株) 代表取締役社長 渡邊 一史氏
経営者の心構え	アーバンベネフィット(株) 取締役会長 木村 勝男氏
眠れる在庫に魂を与え、再び輝くステージを与える	有限会社shoichi 代表取締役 山本 昌一氏

- 外部講師のワークショップを必修科目として実施（年30回）
- 各回とも3コマ構成（1限目＝講演、2限目＝質疑、3限目＝ディスカッション）により、理論と実践との融合を理解する



### 3)教員陣



神戸大学大学院経済学研究科修士、博士（経済学）。  
担当講義科目はベンチャー経営基礎論、技術経営論ほか多数。

#### 経歴

山口大学経済学部卒業後、神戸大学大学院経済学研究科で産業組織論、企業経済論、イノベーション論を研究。滋賀大学経済学部（産業経済論）、大岡山大学経済研究所（産業構造）を経て2003年より現職。著書編纂に『新風刺改良型イノベーションの両面』、『日本のベンチャー企業』、『ベンチャーが社会を変える』など。



山本 健一  
教授

京都大学大学院理学研究科修士、博士（理学）。  
担当講義科目は起業と経営理念、組織経営論、人的資源論。

#### 経歴

三菱電機半導体事業の経営トップを経て、2003年に三菱電機と日立製作所で（株）ルネサステクノロジという半導体専業メーカーを作り、経営責任者となる。一連の活動過程で、創業のメモリ会社やシリコンプレーのネオマジック社、センチリウム社などの立ち上げに参与。また、投資会社にてカーブアウト型ベンチャー育成に従事する。



坂本 千恵  
准教授

一橋大学大学院国際企業戦略研究科修士、博士（経営学）。  
担当講義科目はファイナンシャル・マネジメント、ベンチャー財務論。

#### 経歴

東京大学大学院卒業後、民間調査会社を経てベンチャー企業の執行役員に就任。経営企画分野を中心に株式会社開発業務やM&A等に携わる。2003年より一橋大学大学院にて会社法・M&A法則を専攻。経営、法務、財務の学際的研究に取り組んでいる。2006年より現職。著書に『価値創造をささげる企業買収的能率ルールの考案方』。



藤原 雅典  
准教授

大阪大学大学院経済学研究科修士、博士（経営学）。  
担当講義科目はアントレプレナーシップ論、ベンチャー・マーケティング論、事業戦略論。

#### 経歴

北海道大学卒業後、三和総合研究所、光通信、USENにて、戦略立案、組織変革、ビジネスプラン評価に従事。2001年に北海道大学大学院修士課程、2003年に大阪大学大学院博士後期課程に入学。産業技術総合研究所研究員、朝日大学准教授を経て2010年より現職。著書に『ハイテク・スタートアップの経営戦略』（共著）など。



小沢 真史  
准教授

神戸大学大学院経営学研究科修士、博士（経営学）。  
担当講義科目は財務分析・市場環境分析、事業改革論。

#### 経歴

大阪府立大学卒業後、神戸大学大学院経営学研究科で経営戦略論と経営組織論を研究。MBAサイエンスにて、生産型マーケティングと新規事業開発の支援に従事。大阪府立産業開発研究所客員研究員、早稲田大学助手、鳥取大学准教授を経て、2010年10月より現職。主な論文に、『市場活性化の視座に関する考察』（日本経営学会誌、2005年）など。

→志向性(理論型⇔実務型)の幅の確保

→専門分野(戦略、組織、財務など)の幅の確保



## 4.まとめ

- ・大学全体としての商業教育の伝統を背景とし、社会人大学院（創造都市研究科）の一部にて実践的起業教育に取り組む。
- ・方向性として起業家精神の涵養を目指すのではなく、起業家（または予備軍）に、具体的スキルを教えることを目的とする。
- ・何らかの起業経験を持ち、知識・スキルの必要性を意識している起業家が、学生の中心を構成している。
- ・講義内容は経営学の体系を基本としつつ、課題研究やワークショップを通じて、ビジネスプラン構築に関するスキル獲得や、理論的裏づけを持つ経営ノウハウの獲得に取り組む。
- ・担当教員については、志向性(理論型⇔実務型)と専門分野の面で、幅の確保と組合せを試みている。





